

看取りを見据えた在宅医療・介護連携推進事業の実施について

1 目的

医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、区民自らが健康やケアについて学ぶ機会を提供するとともに、医療・介護関係者等の専門職による多職種の緊密な関係づくりを推進する。

なお、本事業は、文京区と東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナースィングリサーチセンターとの連携に関する協定書（令和 6 年 10 月 24 日締結）に基づき実施し、研究活動を通じて得られた成果を、地域課題解決のために横断的に展開していくことを目指すものである。

2 事業概要

(1) 区民の※ケアコンピテンシーの向上

区民が自発的に健康維持・増進について取り組むため、ケアに関する知識と技術を獲得することを目的としたワークショップなどの啓発イベントを実施する。

※ケアコンピテンシー

自分自身や身近な人の健康の維持・増進に関するケアの知識や技術を獲得し、実践することができる複合的な力のこと。

(2) 「地域にある保健室」を拠点とした地域づくり

区民の健康上の困りごとなどの相談対応を行うとともに、「地域にある保健室」（くらしの保健室など）で生じている課題の共有や事例検討を行う意見交換の場を設ける。

(3) 区内医療・介護専門職等の支援

区内で働く看護職・介護職向けに、他職種の視点や役割の理解を深め、連携を発展させるために看取りリスクプログラムを実施する。

3 今後のスケジュール（予定）

- 令和 7 年 6 月 ケアに関する知識や技術を得るための区民啓発イベント（ワークショップ）の開始
- 9 月 地域にある保健室で生じている課題共有・事例検討の開始
- 10 月 看取りリスクプログラムへの参加募集開始